

# 小湾川水系河川整備基本方針

平成 23 年 3 月

沖 縄 県

## 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び 計画横断形に係わる川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため 必要な流量に関する事項	5
(参考図)	
小湾川水系図	6

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 流域及び河川の概要

小湾川は、人口 10 万人を超え、沖縄県の主要都市の一つである沖縄本島中部の浦添市に位置し、その源を浦添市前田の標高 100m 程度の丘陵地に発し、浦添市経塚から大平、仲西を経て米軍施設キャンプ・キンザーの南側を流下し東シナ海に注ぐ、流域面積 4.83km<sup>2</sup>、幹線流路延長約 5.5km の二級河川である。

気候は亜熱帯海洋性気候に属し、降雨量は梅雨期と台風期に多く、年平均降水量は約 2,050mm、年平均気温は約 23℃である。

小湾川流域は、そのほとんどが浦添市の中心市街地に位置し、市街地が約 80%、農地が約 15%、山林・原野が約 5%を占めている。流域の大部分は市街地が形成されており、特に中流域にあたる国道 58 号から国道 330 号の間は住宅が密集し、小・中学校、高等学校及び養護学校といった教育施設が多く立地している。また、上流の安波茶付近には浦添ニュータウン、下流の勢理客には国立劇場おきなわが立地している。一方、上流域の前田や沢岬では樹林地が一部残されている。

流域の地形は、上流側では標高 100m 程度の台地・段丘を経て丘陵地となっており、国道 330 号付近の中流域では標高 20～90m 程度の起伏の小さな丘陵地形、河口付近は標高 20m 以下の下位段丘面を経て海岸低地となっている。

流域の地質は、新第三紀の泥岩を主体とする島尻層群が国道 330 号を中心とした中流域に広く分布し、砂岩を主体とする島尻層群は上流側の一部に分布するのみである。また、河口付近に琉球層群の琉球石灰岩及び沖積層がわずかに分布している。

源流から一の橋（国道 330 号付近）に至る上流部は、丘陵地及び台地・段丘の中を流下している。河道の大部分は、コンクリート護岸、護床工等が整備されており、水際にヤナギバルイラソウ等が生育する程度で、生物の生息・生育環境は乏しいが、護岸・護床工で整備された一部では土砂だまり等で多様な環境が点在してみられる。県道 153 号線下流の安波茶橋付近では、小湾川の原風景を忍ばせる自然河岸が一部残っており、河道内には連続する瀬・淵が見られ、瀬を好むヒラヨシノボリの生息場となっている他、転石下や流れの緩やかな淵、よどみ等にアカナガイトトンボ等の昆虫が生息している。

一の橋から国道 58 号下流の潮止堰に至る中流部は、市街地の中を流下している。河道のほとんどがコンクリート護岸で、河川に生息する魚類は外来種であるグッピー、ティラピアが主体となっている。水際にシュロガヤツリ、ヤナギバルイラソウ等の植物の生育し、トゲナシヌマエビ等の甲殻類が生息している。また、国道 58 号下流の山付きの自然河岸の区間は、石灰岩地に生育するハマイヌビワ、ガジュマル等の樹木が河川を覆い、

砂礫で構成される河床には瀬や淵が形成され良好な河川環境が残されていることから、クロヨシノボリやヒラヨシノボリの生息場となっている。

国道 58 号下流の潮止堰から河口（小湾橋）に至る下流部は、感潮域となっており、埋立地造成に伴い直線的な水路がコンクリート護岸により整備され、臨海工業地帯の中を流下している。河道内には目立った自然植生は見られないが、砂泥の底にオキナワハクセンシオマネキ等の甲殻類が生息し、ミナミトビハゼやボラ、リュウキュウドロクイ等の魚類が見られる。また、イソシギ、コサギ、ササゴイ等の鳥類の採餌場となっている。

小湾川の治水事業は、昭和 48 年度から河川改修事業に着手し、河道拡幅や護岸等の整備を進めている。河川改修着手後も、未整備区間ではたびたび洪水の被害に見舞われ、特に昭和 60 年 8 月の台風 8・9 号においては鏡橋付近で大きな被害を受けた。そのため、昭和 60 年度から昭和 63 年度にかけて、鏡橋付近から上流約 1.5km の区間では災害復旧助成事業による河川整備が行われ、沿川の浸水被害は軽減された。

河川改修は市街地となる国道 58 号上流を優先することで、浸水被害は大きく軽減されているものの、未整備区間となる国道 58 号下流の流下能力が不足する市道橋付近においては、溢水により道路冠水等が度々発生している。

河川水の利用については、許可水利権や慣行水利権による河川水の利用はされていない。なお、小湾川は流域面積が約 5km<sup>2</sup> と小さく、また、降水量は季節によって大きく変化するため、河川の流況は安定せず、平時の流量は小さい河川となっているが、水利用に関する問題は特に発生していない。

河川の水質については、水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定はされていない。浦添市による平成 20 年度の水質調査 (BOD) によると、上流の経塚橋<sup>きょうづか</sup>では 2.6~4.9mg/L、中流の鏡橋<sup>かがみ</sup>では 2.6~4.8mg/L、感潮域の小湾橋<sup>こわん</sup>では 2.6~5.8mg/L で、いずれの地点においても水質汚濁に係る環境基準に当てはめた場合、概ね C 類型 (BOD5mg/L 以下) 相当となっており、下水道整備率の向上や河川に隣接する畜舎の減少等により、水質が改善されてきているものの、未だ生活雑排水等の流入による水質悪化が見られる。

河川の利用については、上流部の安波茶<sup>あはちや</sup>付近に階段護岸や小広場を有する親水公園が整備されており、地域住民の河川とのふれあいや憩いの場、散策の場となっている。また、首里城<sup>しゅりじょう</sup>と中頭<sup>なかがみ</sup>・国頭<sup>くにがみ</sup>方面を結ぶ宿道として用いられていた安波茶橋<sup>あはちや</sup>と石畳道の復元により、歴史的な良好な景観が形成され、観光資源として利用されている。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、水害発生状況、流域の市街化の進展状況、河川利用の状況、及び河川環境の保全の観点から、治水・利水・環境のバランスを考慮し、河川整備を進めていくものとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、想定氾濫区域内の資産規模や過去の災害実績等を考慮し、50年に1回程度の降雨で発生する洪水を安全に流下させることを目的として、河道の整備を行うとともに、台風による高潮にも対処する。

これらに加えて、計画規模を上回る洪水に対しては発生した被害に応じて必要な対策を講じるほか、できるだけ被害を軽減するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備等、総合的な洪水被害軽減対策を関係機関及び地域住民と連携して推進する。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、地域住民及び関係機関等との協力のもと、生物の生息・生育環境に配慮するとともに、水質の改善に取り組み、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める。

河川環境の整備と保全に関しては、河川及び流域の特性を十分踏まえ、治水、利水との整合を図りつつ、自然環境や人と川との関わりに配慮した整備と保全に努める。

国道58号下流の未整備区間においては、山付きの良好な自然環境に配慮するとともに、上下流の連続性を確保した整備に努める。

河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の保全の観点から、河川の有する多面的機能を十分に発揮できるよう適切に対策を行うものとする。

また、河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、防災教育、河川利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図るとともに、住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を積極的に推進・支援し「みんなで協力しあう川づくり」を目指す。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

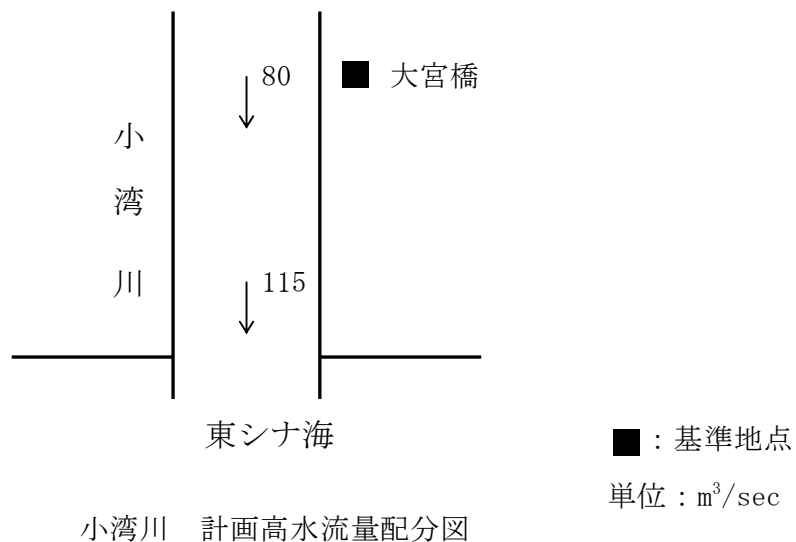
小湾川の基本高水は、50年に1回程度の降雨で発生する洪水について検討した結果、そのピーク流量を基準地点大宮橋において  $80 \text{ m}^3/\text{sec}$  とし、これを河道に配分する。

基本高水のピーク流量等の一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
小湾川	大宮橋	$80 \text{ m}^3/\text{sec}$	$0 \text{ m}^3/\text{sec}$	$80 \text{ m}^3/\text{sec}$

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

小湾川における計画高水流量は、基準地点である大宮橋地点において  $80 \text{ m}^3/\text{sec}$  とする。



### (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる川幅に関する事項

小湾川の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

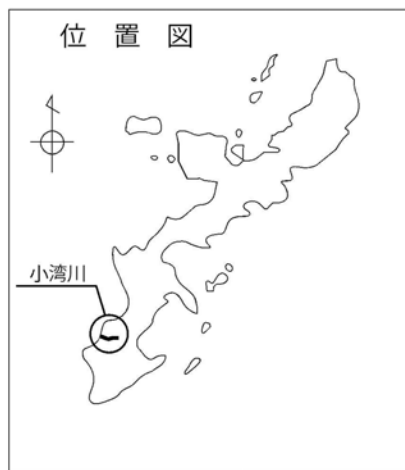
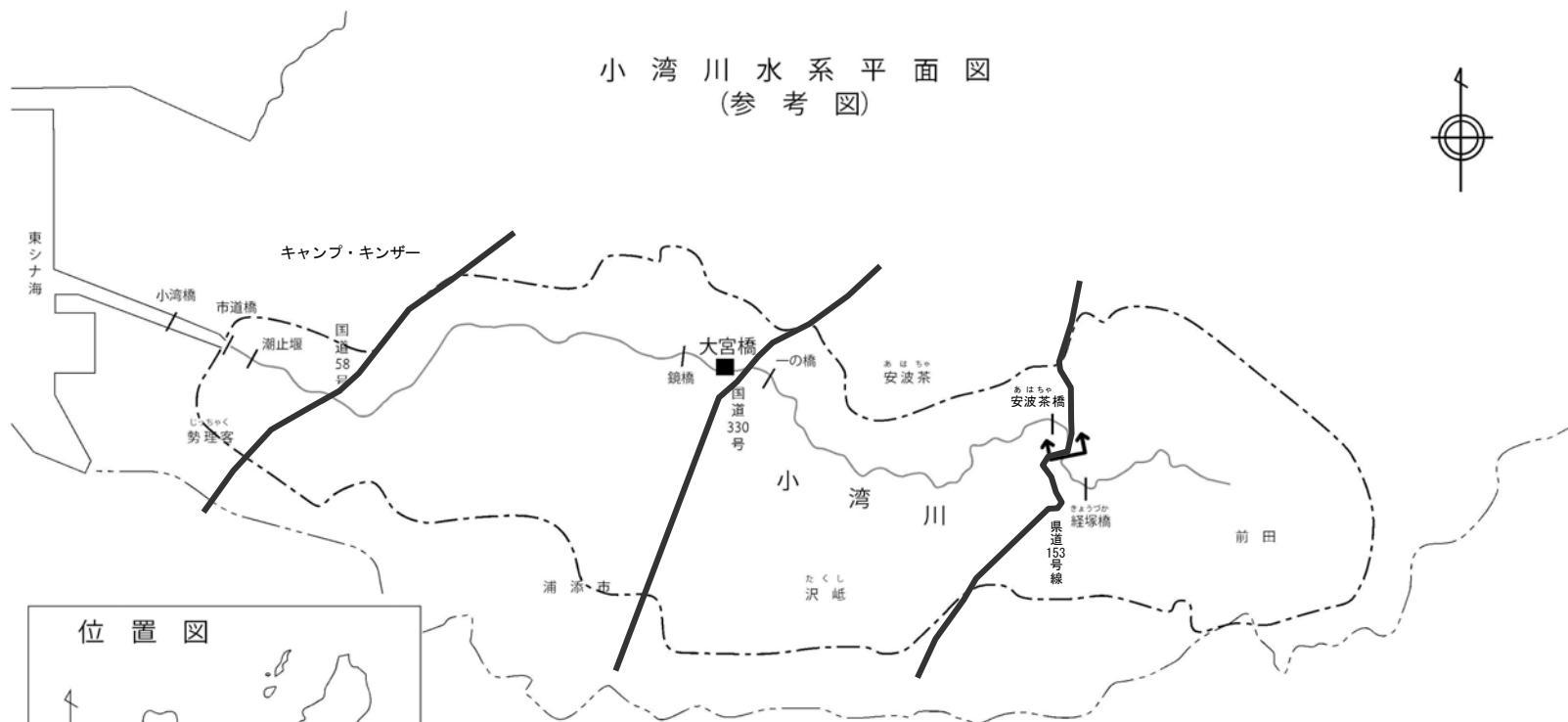
河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 N. P (m)	川幅 (m)	摘要
小湾川	大宮橋地点	2.4	+20.32	8.3	基準地点

N. P : 那覇港中等潮位

### (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

小湾川の流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関しては、流量観測、動植物等の調査やデータの蓄積に努め、今後さらに検討を行う。

# 小湾川水系平面図 (参考図)



凡 例	
■	基準地点
— · — · —	流域界
- · - · - · -	市町村界
	道路・橋梁
↔	管理区間終端